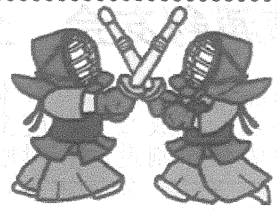


あまけんれん

平成28年3月発行

文責：泉 眞喜夫



新春を迎えて思う

天草剣道連盟会長 福本 康博

輝かしい平成28年の新春を迎えて、天草剣道連盟各支部会員の皆様にとりまして、すばらしい新年をお迎えになられたことでしょう。

天草剣道連盟も平成18年に発足して、今年で10年の節目を迎えることになります。その間、剣道を通じて人間づくりを目標に、その剣の技量の向上に邁進し、交剣知愛の合い言葉で天草剣道の発展をめざし、会員諸氏の切磋琢磨の努力で、かなりの6段、7段の高段者が輩出され、熊本県剣道連盟の中でも高い評価を受けています。

今、一番の問題は、天草の人口減少に歯止めがきかず、少子化の問題も深刻で、試合に出る選手がそろわない現状があり、今後の連盟の運営もかなり厳しいことになることは免れないことでしょう。

しかし、剣道が何よりも好きで、竹刀の音が聞こえると理屈抜きで自然と体が道場に向かう、そんな会員の剣道家が居られる限り、生涯剣道を目指し、少年剣道を大きな愛情で指導し、育ててくだされば、今後の天草剣道連盟は大丈夫だと確信しております。よろしくお願いいたします。

【特別寄稿】

上天草市 剣道教士七段 森 梅太郎

私、今年で92歳になります。「あまけんれん」に寄稿のお話をいただき、ありがたいと思い、何か当たり障りのない一言をと思い、筆をとりました。剣道は、礼儀を忘れたら意味がないのではないかと思います。今、剣道人口がなかなか伸びないと言われますが、何が原因かと言えば、魅力がないからではないかと思います。ここらあたりで、昔のように「うちの子は剣道をやっとります。」と保護者が自慢して人に話せるような剣道にたちかえる時期ではないでしょうか。道場の正面に必ず掲げてある「剣道は、剣に理法の修練による人間形成の道である。」という言葉は、眼に焼き付いています。これを書いた人は、全剣連の湯野正憲という八代出身の人です。一川格治先生と八代中時代の同期と聞いています。こんなすばらしい先生を身近に持った私共は、剣道人として誇りに思わなければと思います。この言葉は、私の剣道に対する心構えのつもりです。諸先生方の一顧を願います。

※今回、福本会長の意向もあり、我々の大先輩である森先生に特別寄稿をお願いしました。最初は固辞されましたが、現在、剣道修業に励んでいる我々のために、是非一言でもいいのでアドバイスを願いますと、無理をお願いいたしました。現在、高齢のため竹刀を持っての直接指導は叶いませんが、森先生が永年の剣道修業を通じて得られました多くのことは、天草剣道連盟にとっても財産だと思います。今後も、いろいろとアドバイスをお願いしたいと思っています。

平成28年稽古始め

平成28年の天草剣道連盟の稽古始めが1月10日(日)に天草市総合武道館剣道場において行われました。当日は、18名の参加者があり、全員で基本稽古を行った後、地稽古で相手をかえながら汗を流しました。私は、10名と稽古しましたが、普段なかなか稽古できない人とも稽古することができ、新鮮で充実した稽古ができました。天草には、まだまだ多くの剣道愛好家がおられます。天草の剣道のレベルも他郡市剣道連盟にひけとらないことは、県民体育祭において、2年連続準優勝したり、六段や七段に多くの合格者を出すなどの結果を見ればわかります。今年も、県民体育祭や三地区親善剣道大会、西山杯剣道大会等で好成績を残したり、昇段審査において、多くの高段者が誕生しますよう、それぞれが目標を持って稽古に励んでいきましょう。それぞれの目標



(稽古後の記念撮影。第2道場も盛会でした。)

達成のためには、できるだけ多くの人と稽古する必要があります。各地区持ち回りで行われる合同稽古会や武道館、アロマ等で行われている稽古会、その他各地で行われている自主的な稽古会への参加など、自ら求める稽古により、自分の剣道を磨いていきましょう。